

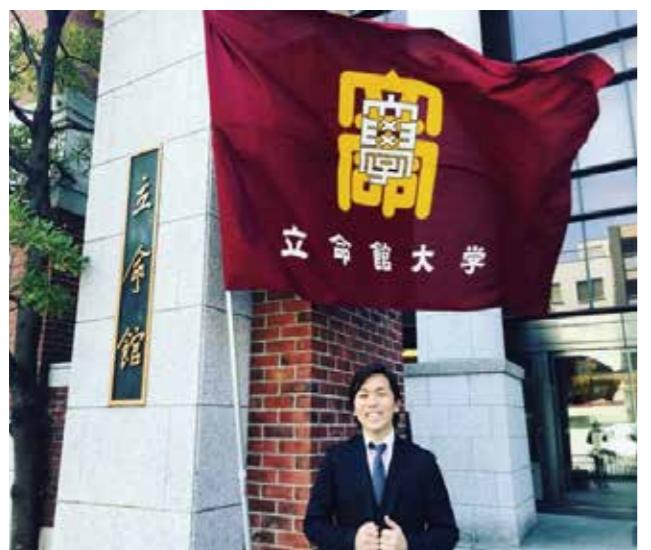
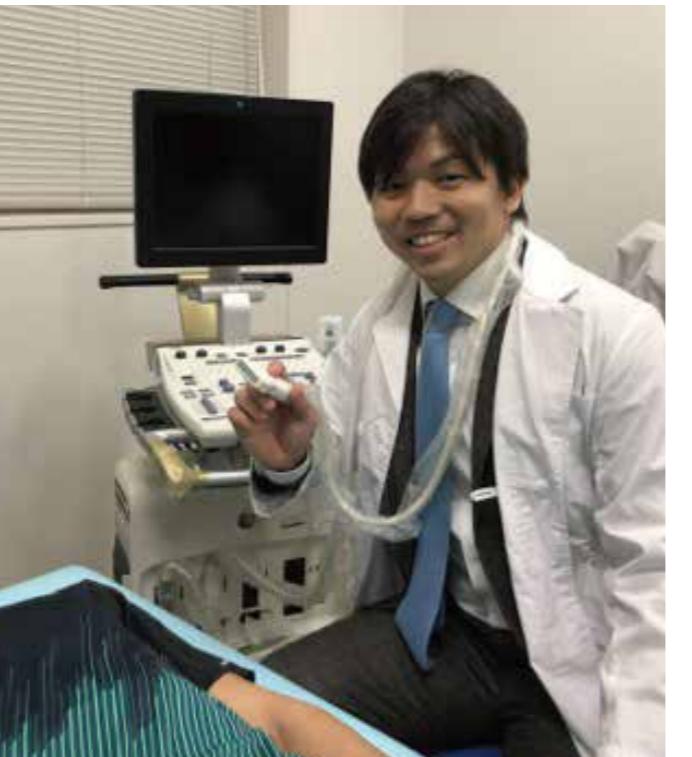
動脈硬化に対する運動効果を 予測する血液バイオマーカーの探索

立命館大学スポーツ健康科学部 助教

藤江 隼平

私の考える
保健の
博士力

研究力の獲得
世界レベルで戦う



let's access



この QR コードを読み取ると
インタビュー動画を
視聴することができます



この QR コードを読み取ると
博士学位論文に
アクセスできます

学位授与の年月 2018年3月

学位論文のタイトル 有酸素性トレーニングによる新規血管内皮由来 NO 産生調節物質の増加が動脈硬化低下効果に及ぼす影響

指導教員名 家光 素行

研究領域 運動生理・生化学

キーワード 運動・動脈硬化・血管拡張・一酸化窒素・バイオマーカー・オーダーメイド運動处方

学位取得を
目指した
きっかけ

将 来、世界保健機関 (WHO) で働くことを夢見て、本学部に1期生として入学した。初代学部長である田畠泉教授に繋いで頂いた家光素行教授の下、学部2回生時から研究を始め、研究の楽しさや悔しさに夢中となった。さらには、本学部の先生方を間近で見ているうちに、大学教員の素晴らしさや魅力を感じるようになった。WHO研究員および大学教員となるには、博士学位取得が必須であることから、運動生理・生化学分野に精通している家光教授の指導の下で博士学位の取得を目指し、世界の死因の第一位・循環器疾患の予防研究の第一人者となることを目標とした。

在学中

日 本学術振興会特別研究員 DC1 に採択され、体育・スポーツの分野で2度の若手研究奨励賞を受賞し、家光教授を始めとした本研究科の先生方のご指導のおかげで順風満帆な研究生活を送ることができた。さらに、体育・スポーツの分野だけでなく、様々な領域・分野に波及効果のある研究を意識するようになり、国内外の医学・分子生物学・栄養学などの学会も含めて数十回の研究発表を行った。博士学位論文では、習慣的な有酸素性運動により動脈硬化が低下改善する分子メカニズムに関して、動脈血管の一酸化窒素 (NO) やその調節ホルモンに着目して、研究活動に邁進した。本学位論文は、ヒトおよび動物を対象として実施し、運動による動脈硬化改善効果解明の一助となり、さらには、その中の研究がアメリカ生理学会やアメリカ心臓病学会が発行している著名な国際学術雑誌に掲載された。

現在

博 士学位を取得後、日本学術振興会特別研究員 PD として筑波大学で研究活動に邁進するとともに、共同研究として1年間、米国・University of Missouri へ研究留学した。University of Missouri では、立命館大学での博士学位論文でも着目していた NO 産生調節ホルモンの検討を細胞培養実験にて実施した。研究活動初めての挫折を米国にて感じたが、家光教授の「いつでも日本へ帰っておいで」の一言で心が晴れて、充実した研究留学となった。2020年4月より母校である立命館大学スポーツ健康科学部に創部10周年という縁深いタイミングにて着任した。現在も一貫した研究に着手しており、様々な実験を行ってきた私だから可能な動物・細胞培養実験からヒト実験へと応用できる Translational Research として現在検討している。本研究科には、世界的にも優れた研究施設・環境を有しており、現在も直往邁進できることに大変感謝している。

将来像

母 校である立命館大学スポーツ健康科学部の教授となり、藤江ゼミを立ち上げ、後輩でありながら教え子の育成を将来像として掲げており、本研究科の OBOG 同士の共同研究も思案している。加えて、『運動と循環』研究の世界的な第一人者となることを研究目標に掲げている。さらに、社会貢献として、運動による動脈硬化改善効果を早期に予測できる血液バイオマーカーの同定を目指している。

今ここにない未来を創り、世界を変えましょう！